

令和 8 年度 多治見市民病院指定管理者評価委員会議事録

- 【日 時】 令和 8 年 7 月 2 4 日（金） 14：30～15：40
- 【場 所】 多治見市役所 駅北庁舎 4 階災害対策本部室
- 【出席者】 山田 敬一 委員長（東濃保健所長）
尾関 恵一 委員（多治見市監査委員）
鈴木 直樹 委員（市民代表）
鈴木 亜紀子 委員（市民代表）
多治見市民病院（以下、「市民病院」）
院長 今井裕一、事務長 池田達也
（事務局）
こども健康部長 杉村哲也
企画政策課長 水野琢也
保健センター所長 加藤直美（進行）
保健センター 後藤紀男、片山直也

【次 第】

- 事務局紹介
- こども健康部長あいさつ
- 委員長により開会
- 傍聴人有無の確認
傍聴人無し
- 会議の成立確認
全員出席により成立
- 事務局から評価シートの見方、評価の定義等の説明

【議事概要】

（事務局）

～資料 1 について説明～

1 診療について

（委 員）常勤医師が 44 人、非常勤医師が 59 人となっており、事業計画の目標数よりも多いため高く評価できる。看護師は目標数に届かなかったが、昨今の情勢からなかなか集まりにくい状況である。岐阜県立多治見病院（以下、「県病院」）では看護師が不足、医療体制が縮小しているという話もある。それらの状況を踏まえ

て事務局の評価は妥当だと思う。

(委員長) 看護師は日本全国で不足している。看護学校に入学する生徒も少なくなっている状況である。少子化の影響や、責任ある仕事から志望する人が少なく、話に挙げた県病院も一部病床を縮小する状況になっている。

医師はいるが、看護師が足りていないと聞いている。

(委員) 若手医師は優れた設備や技術を学ぶため都市に集まりやすく、田舎に呼ぶのが困難である。しかし、市民病院は優れた指導を実施しており、医師を十分に確保できている。

(委員) 医師の確保に尽力していることはよく理解できた。

市の評価で形成外科では、常勤医師が減り、入院患者数も前年度を大きく下回ったとある。しかし、全国的な少子化で東濃地域が人口減であることから入院患者数等が減ってしまったのであれば目標設定を見直すべきではないか。また、市民病院の医療機能に問題がある場合はしっかりと向き合っていく必要がある。

(委員長) 目標に対し、手術件数が約 96.4%、入院患者数が約 97.1%と高い水準で達成しているため、課題としてとらえる必要はないと思う。

(委員) 経営の診断として人口の減少から入院患者数等が減少するから仕方がないのか、目標を達成するためにさらに努力をするべきなのか難しいところである。

(委員長) 事業計画書に掲げた目標値について教えていただきたい。

(事務局) 事業計画書については毎年度、市民病院から提出されるものであり、5 年間の中期計画をもとに作成される。今の中期計画は令和 7 年度から令和 11 年度までとなる。医療業界の環境等も変わってきていることから令和 9 年度の事業計画は東濃地域の人口減の状況等を踏まえて作成したい。

(委員長) 事業計画書は現実的な数値になるものと理解した。

市民の方々が病院にかかりたいときにかかれるようにニーズに合った体制を整えていただきたい。

外来診療、入院診療は目標には至らなかったものの、達成率は 95%以上であるため○とする。

(事務局)

【評価の確認】 基本的医療機能○、外来診療○、入院診療○、安全管理・医療倫理○

2 政策的医療について

(委員) 政策的医療は不採算部門であるため、民間病院ではやらない選択ができるが、市民病院には取り組んでもらわないといけない。重要な政策的医療を維持するため多治見市は政策的医療負担金を出している。赤字覚悟で取り組んでもらっているが、小児医療については外来患者が少ない。市民病院には市民のニーズをしっかりと受け止めていただきたい。

(委員長) 事務局が説明した資料 3 は小児の時間外受診が多く、小児外来患者には含まれていないということでしょうか。

(事務局) 含まれていない。多治見市の出生数の減少、小児の時間外受診により救急科の外来患者数として計上していることを説明した資料である。

(委員長) 小児の時間外受診率が高いことは理解した。

外来患者数等の数値のみで評価するのは難しいが、医療サービスの質や満足度などが加味されると政策的医療の評価としてより良いものとなると思う。

(委員) 採算の合わない事業をしているのだから一定の評価はすべきだと思う。病院の受け入れ体制が整っていても患者数が少ないのであれば仕方がない。

(委員長) 時間外診療は待ち時間が長すぎると苦情を聞くことがあるが、令和 7 年度の年末年始は市民病院が多治見市医師会（以下、「市医師会」）に協力を要請し、市医師会医師が市民病院に勤務することで救急医療体制を堅持したことはすばらしい。この取り組みが市民に伝わるようにするとよいと思う。

(委員) リハビリテーション医療について、令和 7 年度は公立東濃中部医療センターができるなど外的要因により、患者数が減ることが推測できる。事業計画書の目標値を設定する際に考慮していただきたい。

(委員長) 保健衛生事業の健診等の実施件数について、電子カルテの導入の影響により目標件数を下回ったとある。委員の指摘のように、あらかじめわかっていることであれば目標件数の設定に考慮すべきであったと思う。

政策的医療にかかる項目についてはすべて○でよいと思う。

(事務局)

【評価の確認】救急医療○、小児医療○、リハビリテーション医療○、保健衛生事業○、災害時医療○

3 地域医療連携・施設等の維持管理

(委員) 診療所、市民病院、そして県病院があり、一次医療から三次医療までのシステムを維持しないといけない。多治見市は市民病院と県病院が近く、患者等で重複してしまうことがある。県病院は東濃地域のための病院であるため、地域医療としてうまく連携していかないといけない。市民病院は地域の診療所とうまく連携できていると思う。

(委員) 研修医の受入れを積極的に行っており、若い医師を大切に育てようという思いが伝わってくる。市民病院での研修を希望する方が増えており、研修医の制度や温かさが伝わった結果だと思う。先ほどから人口減少による患者の減少や医師の減少などのマクロな要因が挙げられ、医学生も減っているなか、医師を確保できているのはすごい努力である。

(委員長) 一次医療である市医師会で休日急病診療を運営されるのが一般的だが、市民病

院が行っている。本来の役割である二次医療をおろそかにすることなく完遂しており、市医師会から信頼を得ている。その結果、年末年始の休日急病診療で市医師会の医師が市民病院で診療するといった協力体制ができている。

(市民病院) 令和 6 年度に新型コロナウイルス感染症とインフルエンザが流行し、年末年始に大勢の患者が来られた。その時は市民病院の医師だけで対応したが、それでは多治見市の医療として成り立たないため、令和 7 年度から年末年始の休日急病診療は市医師会の医師に手伝ってもらう仕組みを作った。

また、紹介率が上がっている要因として、診療所から「患者が午前 11 時ごろに来られた際、どこへ紹介するか、入院が必要など大きな判断をするときの連絡先に困っている」と伺った。そこで市民病院で直通回線を開設し、11 時から 1 時までの間、診療所から紹介を受ける仕組みを作った。また、夜間についても診療所は午後 7 時まで診察をされており、患者を受け入れできるよう体制を整え、連携している。

(委 員) 診療所、市民病院、そして市民とのつながりをより密接にしてもらいたい。

(委員長) 市の施策協力については、利用実績がなく、今後の受入体制を検討いただきたいことから△とする。

(事務局)

【評価の確認】地域医療機関との連携等○、市民参加の促進○、市の施策協力△、介護保険事業等高齢福祉の協力○、施設等の維持管理○

4 その他について

(委 員) 全国の公立病院で黒字経営をしているところはほとんどない。今後も努力していただきたい。

(委員長) そのほか、質問、意見はないか。

(委 員) 特になし

(委員長) これをもって閉会とする。(15:40 終了)